

Speciality for Customer

株式会社プロシップ (証券コード：3763 東証プライム市場)

2026年3月期 第1四半期決算説明資料

## INDEX

# 株式会社プロシップ 2026年3月期 第1四半期決算説明資料

- 01** 2026年3月期 第1四半期 連結業績
- 02** 2026年3月期 連結業績予想

# 01 | 2026年3月期 第1四半期 連結業績

## 2026年3月期 第1四半期 連結業績

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比
売上高	1,485 百万円	1,806 百万円	+ 21.6 %
営業利益	193 百万円	558 百万円	+ 188.9 %
経常利益	224 百万円	588 百万円	+ 161.9 %
( 経常利益率 )	( 15.1 % )	( 32.6 % )	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	163 百万円	413 百万円	+ 152.6 %

# 2026年3月期 第1四半期 決算ハイライト

中期経営計画「Be Hybrid 2028」2年目となる2026年3月期 第1四半期はすべての指標で前年同期を上回る成長  
新リース会計基準の業績への貢献は、年度後半以降となる見通し

## 売上高

**1,806** 百万円

前年同期比 +**21.6** %

過去最高

- 案件の大型化
- 要員1人当たりの案件密度が高い状態を維持継続
- 既存顧客に対するバージョンアップ対応の進捗
- 成長戦略と位置付けているインフラ業界向け大型案件の推進

## 経常利益

**588** 百万円

前年同期比 +**161.9** %

過去最高

- 売上原価の抑制  
全社的な品質管理の強化と生産性向上の取り組みの成果
- 販売費及び一般管理費の抑制  
ただし、人財と製品開発へ積極投資する年度方針に変更なし

## 当期純利益

**413** 百万円

前年同期比 +**152.6** %

過去最高

- 売上・経常利益の増加  
新株予約権戻入益が前年より少額に留まったものの、経常利益が高水準となったことにより、純利益も過去最高を更新

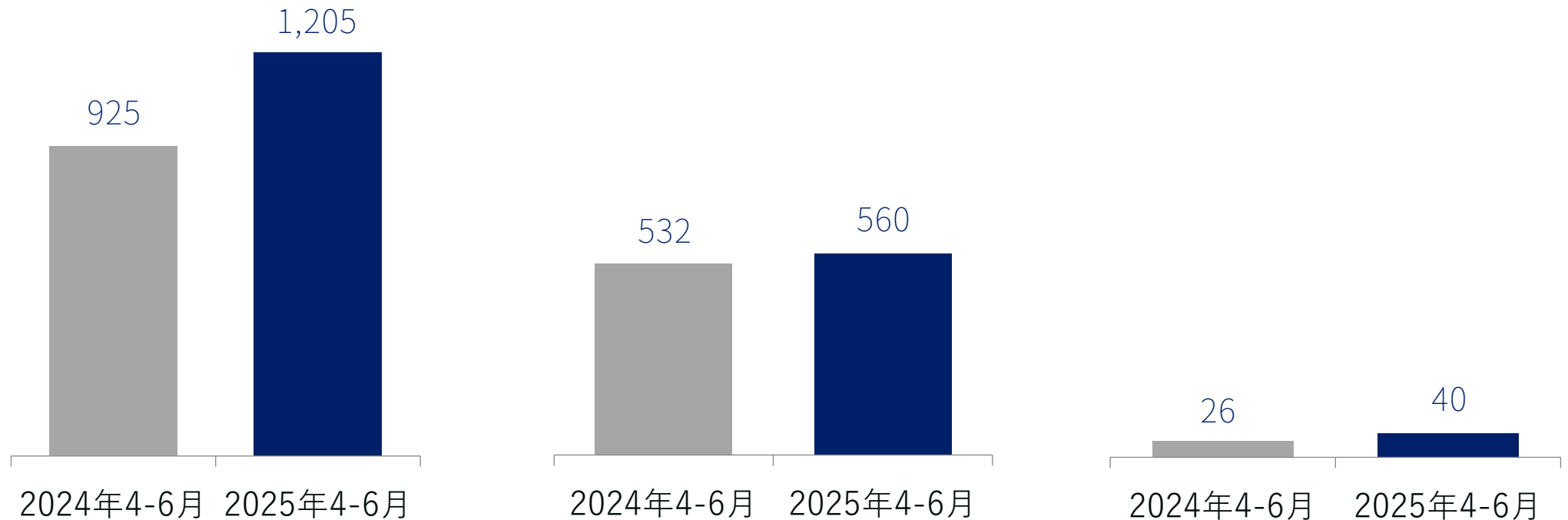
## 売上高の内訳

- パッケージ : 案件の大型化や要員1人当たりの案件密度が高い状態を維持できたことにより30.3%の増加
- 保守 : 新規ユーザの増加等により5.1%の増加

(単位: 百万円)



※ProPlusのライセンス販売、導入および、  
アドオン・カスタマイズ費用

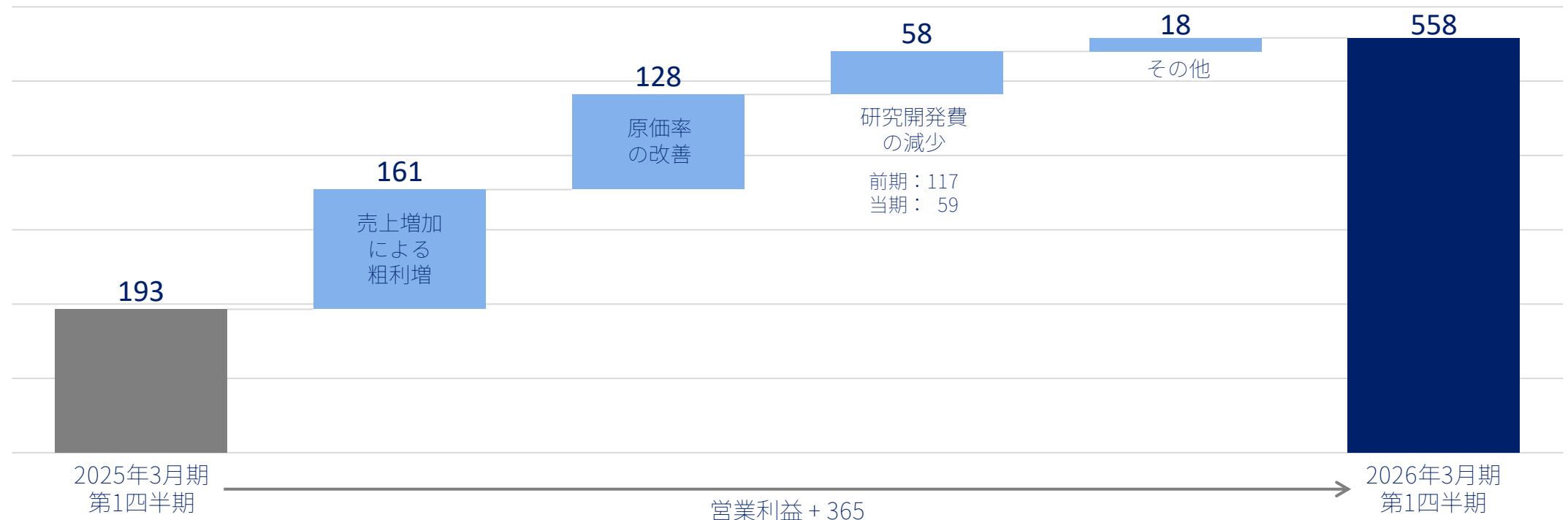


## 営業利益の増加要因

営業利益は前年同期比 365百万円増加、主な内訳は以下の通り

- 売上の増加による売上総利益の増加 (前期比 +161百万円)
- 原価率の改善による売上総利益の増加 (前期比 +128百万円)
- 研究開発費 (販管費) の減少による営業利益の増加 (前期比 + 58百万円)

(単位：百万円)



## 受注高・受注残高

■ パッケージ ： 案件の大型化、要員一人当たりの案件密度の上昇による案件受入数の増加により、  
受注高・受注残高ともに前年同期比プラス

■ 保 守 ： 受注高は、長期契約の受注停止※等により前年同期比マイナス  
受注残高は、新規ユーザ増加により前年同期比プラス

※ 現在の物価上昇リスクや当社サービスの解約率が低いこと等を勘案し、保守の複数年一括契約を停止しております

2026年3月期 第1四半期				
品目	受注高	前年同期比	受注残高	前期比
パッケージ	987 百万円	+ 13.2 %	2,916 百万円	+25.4 %
保守	561 百万円	△ 16.8 %	2,730 百万円	+ 0.3 %
その他	40 百万円	+ 43.3 %	61 百万円	+ 28.6 %
合計	1,589 百万円	+ 0.9 %	5,707 百万円	+12.0 %



## 02 | 2026年3月期 連結業績予想

# 2026年3月期 通期業績予想

下期以降、SaaS事業の基盤構築や人員数に依存しない成長を目指したDX投資に伴い、一時的な費用増加を見込むことから、期初の連結業績予想は据え置き。

	2025年3月期	2026年3月期	前期比
売上高	7,564 百万円	8,200 百万円	+ 8.4 %
営業利益	2,309 百万円	2,310 百万円	+ 0.0 %
経常利益	2,431 百万円	2,460 百万円	+ 1.2 %
( 経常利益率 )	( 32.1 % )	( 30.0 % )	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,930 百万円	1,800 百万円	△ 6.8 %

## 2026年3月期 通期業績予想

中期経営計画「Be Hybrid 2028」における構築期の最終年度として、新リース会計対応が本格化する拡張期に向けた準備を整える。

### 売上高

**8,200** 百万円

前期比 +**8.4** %

過去最高

■ 増収見込み

前期に引き続き、既存顧客に対するバージョンアップ対応、インフラ業界等での新規案件獲得を計画

### 経常利益

**2,460** 百万円

前期比 +**1.2** %

過去最高

■ 原価率の見積り

2025年3月期における原価率は、通期44.1%であったが、2026年3月期通期業績予想においては、当社の基準となる原価率（46%～48%）を見込む

■ 戦略的IT設備投資

人員数に依存しない成長に向けたDX投資やSaaS事業の基盤作りにより 一時的な費用増加を見込む

### 当期純利益

**1,800** 百万円

前期比 △**6.8** %

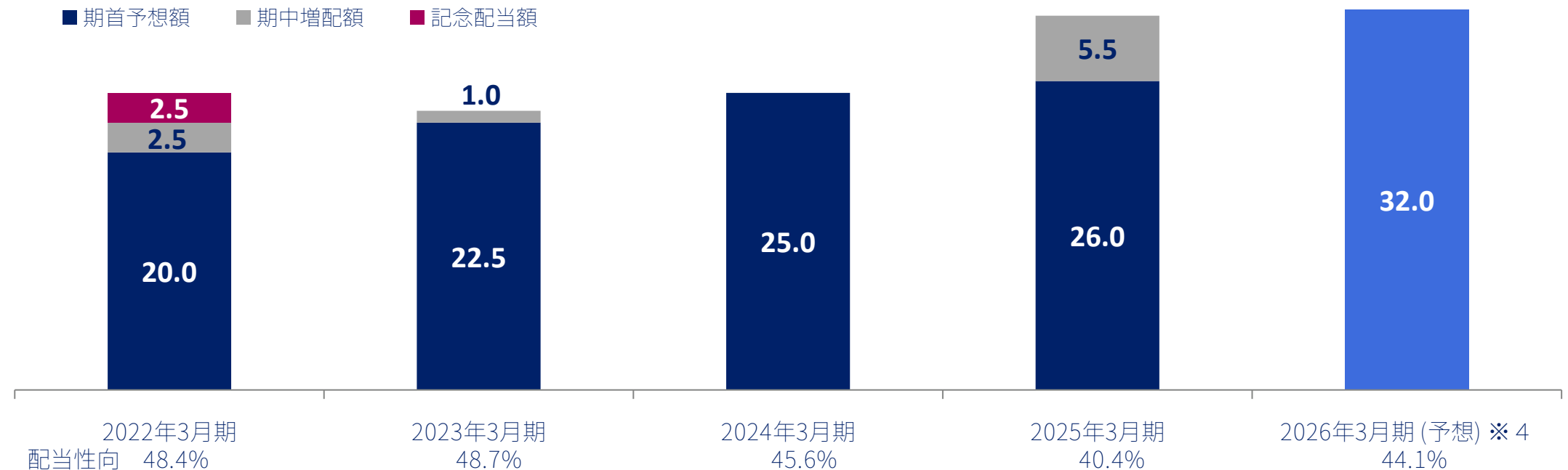
■ 法人税等の増加

賃上げ促進税制および研究開発税制による減税効果が前期を下回る見通しのため、親会社株主に帰属する当期純利益は減少を見込む

# 2026年3月期 1株当たり配当予想 ※1

## 配当方針 ※2

持続的成長のための先行投資を推進し、収益力および資本効率の向上を図るとともに、累進配当※3 を継続して実施することで、株主の皆様への積極的な利益還元に取り組む



※1 : 2025年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を予定しており、2022年3月期の期首に当該分割が行われたと仮定して算出

※2 : 2025年7月10日に公表したとおり、2026年3月期より、配当方針を以下のように変更しております。

なお、2024年11月20日に公表した「中期経営計画 Be Hybrid 2028」の中で掲げた2025年3月期からの5年間の間に創出する利益を原資として、約40億円の株主還元を目指す方針に変更はありません。

※3 : 原則として減配せず、配当の維持もしくは増配を行うこと

※4 : 2026年3月期の配当性向（予想）は、2025年3月末時点の株式数に基づき算定



株式会社プロシップ (証券コード：3763 東証プライム市場)

# 2026年3月期 第1四半期決算説明資料

本資料に掲載されている情報のうち、今後の業績予想・見通しなどの将来に関する情報は、その時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであります。  
従いまして、実際の業績等は、経営環境の変化などにより、計画数値と異なる可能性があります。  
また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。